

「企業と市場のシミュレーション」(井庭)

最終レポート

成績評価方法

■ 授業各回へのフィードバックコメント

- 各回終了後、授業中に出てきた考え方や議論を自分なりに再考して、フィードバックコメントを提出。
- 授業後3日間の間に電子メールで提出。
- 分量は任意。
- 締め切り後、お互いのコメントがWeb上で公開される。

■ ~~最終発表および~~最終レポート

- 1人または数人によるミニ研究プロジェクト
- 考察対象は、自分たちの興味に合わせて設定
- この最終課題で問われるのは、プログラミングの技術力ではありません。
- 自らの成果の評価軸を設定

最終レポート課題

- 自分の興味のある現象などの「モデリング」や「シミュレーション」を行い、レポートにまとめる。
- 締切: 2004年1月28日(水)4時30分まで
 - 当日のみ提出可
- 提出先: α 館事務室
- 分量: 表紙 + 本文3枚以内 + 添付資料(図など)
- 形式: A4用紙
- 表紙
 - レポートタイトル
 - 名前、学籍番号、メールアドレス
 - 複数人の場合には全員の情報
 - このレポートのセールスポイント(評価してほしい点、注意して読んで欲しいところ、こだわった点など)

最終レポートの注意点

- 2、3人で取り組んで構わないが、その場合、人数相応の成果を期待する(その場合、最終レポートについては、全員同じ評価となる)。
- 他の人の協力を受けてもよいが、その場合には、その旨をしっかり書く。
- 参考文献、参考URLを明記する。
- シミュレーションを作成した人は、レポートとは別に、締切までにメールで「プロジェクトの圧縮ファイル」を、iba@sfc.keio.ac.jp に送ってください。
- わからない点、困っている点などがあれば、授業用電子掲示板か、メールで質問を受け付けます(時間ぎりぎりの場合は対応できない場合もあります)。

最終レポートのヒント: 本文の部分

- 今回の課題は、モデリングやシミュレーションによる社会分析の研究構想と考えてよい。そのため、今回提出分でできていないことまで含めて、目指すゴールを考えてよい。

- 問題意識
- 背景・説明
- 仮説(モデルによる説明を目指す場合)
- モデル
- 期待される成果

モデリングの場合は、そのモデルによって、現象の「記述」を目指すのか、現象の「説明」を目指すのか、を意識するとよい。

最終レポートのヒント: 添付資料の部分

- モデリングの過程で得られたモデルを添付する。
 - クラス図(その現象におけるエージェント、行動、関係、財、情報は?)
 - アクティビティ図(行動のフローチャート)
 - シーケンス図(複数のエージェント間の相互作用を描く)
 - 状態遷移図(行動がどのような状態遷移をするか。もしできるなら、ここまで挑戦してみてください。)
- その図が何の図であるかを明記すること。
- 書式についてはこれまでの配布資料等を参考に。
- 図の描き方については、厳密でなくても構わない。
- なんらかのツールで清書しても、手書きでもよい。